ＫＣＩギャラリーにおける過去の小企画展

＊すべて京都服飾文化研究財団主催

会期	展覧会名	概要
2000. 6. 1-7. 31	ウォルト展	ＫＣＩギャラリー開設記念展。19 世紀、パリ・オートクチュールの基礎をつくったシャルル=フレデリック・ウォルトの衣装の展覧。
2000. 11. 13-12. 22	＜KCI が選ぶ＞20 世紀ファッション・ベスト 10	21 世紀を目前に、ＫＣＩは 20 世紀ファッションを突き動かした 10 の項目を選出。20 世紀ファッションを再検証。
2001. 6. 1-7. 31	パワー・ドレッシング –1980's ファッション－	女性がパワフルに社会に進出した 1980 年代、当時働く女性として「パワー・ドレッシング」を体現した小山寿美代氏、芳村真理氏の寄贈品を中心に構成。
2001. 10. 1-11. 30	メイド・イン・ジャパン　–明治の輸出品－	鎖国を解き、近代化へと邁進を始めた日本は対外貿易に乗り出す。明治期に日本から西欧に輸出された絹製品を中心に展示し、日本の輸出初期の状況とその背景を探求。
2002. 1. 15-2. 15	衣装展の舞台裏 －KCI 収蔵衣装の補修・修復－	衣装展を舞台裏で支えている補修・修復の技法と過程を、修復され蘇った収蔵品と共に紹介。
2002. 3. 1-5. 17	服に染められた花 －19 世紀のプリント・ドレス－	19 世紀、技術的進歩を背景に、西欧のプリント産業は飛躍的に発展した。1830 年代から 1870 年代の花柄のプリントのドレスを出展。
2002. 9. 2-10. 31	アール・デコのデザイン　－靴のヒール－	1920 年代の重要なファッション・ポイント、靴のヒールを中心に展示。当時の新しいデザイン様式アール・デコがファッションに及ぼした影響を検証。
2002. 11. 21-12. 20	KCI コレクション －『ファッション』出版記念－	ＫＣＩの収蔵品約 400 点を掲載した『ファッション』(タッシェン社) 出版記念展。掲載作品の中から、未出展の作品を中心に展覧。
2003. 3. 3-5. 30	ポップ・ファッション	1950-60 年代、大衆消費の到来と共に生

		まれたポップ・アートは、ファッションにも強い影響を与えた。当時のファッションと、ポップ・アートに影響を受けた20 世紀末の作品を展示。
2003. 9. 22-11. 28	男のおしゃれ －18 世紀から 19 世紀のジレ－	ジレは男性のおしゃれの重要なポイントであった。フランス革命前の豪華な刺繍のジレから、革命後に誕生した市民社会を背景に流行した縞柄のジレまでを展覧。
2004. 10. 25-12. 24	The Art of Chanel －ココ・シャネルの仕事－	シンプルで機能的な作品を発表し、20 世紀の新しいエレガンスを生み出したシャネル。その活動において最も重要な時期にあたる 1920-30 年代の作品を紹介。
2005. 3. 28-5. 27	ファッションはパッション　－小山壽美代氏寄贈品展－	高島屋で活躍する小山壽美代氏からの受贈を機に開催。同氏が着用した 1990 年代前半のロメオ・ジリとマウリツィオ・ガランテの作品を中心に構成。
2005. 10. 26-12. 23	英国紳士のエレガンス&キッチュ　－ポール・スミス寄贈品展－	ポール・スミス・ジャパン社よりポール・スミスの紳士服を受贈したことを機に開催。20 世紀後半「男らしさ」という観念が問い直されるなか、紳士服に多様な色や柄を復権させたスミスの功績を展覧。
2006. 6. 12-7. 28	連続企画「『ファッション』のもう一つの読み方」－第 1 回　ローブ・ア・ラ・フランセーズ－	出展作品やその時代背景を解説するレクチャーを中心としながら、KCI コレクション集『ファッション』の掲載作品や未公開作品など KCI の代表的な衣装をみる連続企画の第一回。18 世紀のローブ・ア・ラ・フランセーズを展示。
2006. 9. 11.-29	西尾美也展	コミュニケーション・ツールとしての衣服の可能性を探り、新しい表現を形にしてきた若手アーティスト、西尾美也の新作展。
2006. 11. 6-12. 22	連続企画『ファッション』のもう一つの読み方」－第 2 回　革命のファッション：エンパ	19 世紀初頭、大きく転換したファッションは、フランス革命による社会体制の変化、新しい美意識、産業革命などの要因を背景にしていた。当時流行した白い木

	イア・ドレスー	綿製のドレスを出展。
2007. 1. 16-2. 9	洋服にあらわれた日本の文様	19 世紀後期から 20 世紀初期に西欧で流行したジャポニスム（日本趣味）を背景に表出したファッション、特に西欧の衣服に見られる日本の文様に焦点をあてた。第 12 回ミュージアムロードに協力したもの。
2007. 3. 5-4. 30	シャネル・ヴィトン・ジバンシィ ー近年の寄贈品からー	2000 年以降に KCI が受けた寄贈作品のなかから、ジバンシィ、ルイ・ヴィトン、シャネル各社から受贈した作品を紹介。
2007. 6. 15-7. 31	連続企画『ファッション』のもう一つの読み方 展－第3回 ロマンティック・スタイルー	1820年代から30年代、コルセットによる細いウエストが復活。袖やスカートは膨らみ、華やかな色彩や模様も復活した。ロマン主義華やかな時代の服飾を展示。
2007. 11. 5-12. 26	連続企画『ファッション』のもう一つの読み方 展－第4回 エレガンスの帝国:クリノリンとバッスルー	文学や音楽など様々な芸術分野でロマン主義が熱を帯びた 1830 年代、ファッションもその流れに呼応した。細いウエストとベル型のスカート、大きく膨らんだ袖を特徴とするドレスを出展。
2008. 3. 24-5. 30	1980年代の色とかたち ーアンヌ＝マリー・ベレッタとポピー・モレニ	近年、寄贈を受けたベレッタ、モレニ両氏の作品を通して1980年代の「色彩」と「造形」の特徴を探る。
2008. 10. 14-2009. 3. 31	収蔵品紹介 1	KCIの収蔵品から19世紀後半の下着とドレスを出展。
2009. 10. 1-2010. 2. 26	収蔵品紹介 2	上半身に密着したボディスやジャケットを中心に 1980 年代以降の作品を出展。
2010. 3. 15-7. 30	収蔵品紹介 3 18世紀の髪型	18 世紀の衣装とパネル展示。18 世紀の髪型に焦点をあてる。
2010. 9. 14-12 .28	収蔵品紹介 4 印象派画家が見たパリ・モード	印象派の画家たちが活躍した 19 世紀後半から 20 世紀初頭の衣装作品を出展。
2011. 1. 17-4. 28	収蔵品紹介 5 ヘルムート・ラング	近年、寄贈を受けたヘルムート・ラングの 1990-2000 年代の作品を出展。
2011. 5. 23- 7. 29	収蔵品紹介 6 頭上の楽園	帽子をテーマに、20 世紀の帽子やヘッドドレスを展示。

2011. 9. 12-12. 23	収蔵品紹介 7 アール・ヌーヴォーとアール・デコの下着	コルセットからブラジャーへと移り変わる、アール・ヌーヴォーからアール・デコ期の女性下着の変化について展示。
2012. 1. 30-4. 27	収蔵品紹介.8 二人の C	20 世紀の米国において既製服の普及に大きく貢献したチャールズ・ジェームスとクレア・マッカーデルの作品を展示。
2012 .5. 21-7. 27	収蔵品紹介 9 トキオの靴	1980 年代に活躍した靴デザイナー、熊谷登喜夫の作品を展示。
2012. 8. 13-12. 21	収蔵品紹介 10 1980 年代	1980 年代の主流であったボディ・コンシャスなファッションを展覧。
2013. 1. 28-4. 26	収蔵品紹介 11 新収蔵品紹介	新収蔵品紹介展。2011 年度および 2012 年度の新収蔵品から選出。
2013. 5. 20-8. 16	収蔵品紹介 12 水辺のファッション	1950-70 年代の水着に加え、20 世紀前半の水着やリゾート用の衣装を展示。
2013. 9. 13-12. 13	収蔵品紹介 13 靴が語る	KCI デジタル・アーカイブスで公開中の 18 世紀から現代までの靴を中心に展示。
2014. 1. 13-3. 14	収蔵品紹介 14 私的空間の装い	19 世紀後期から 20 世紀前期の室内着を展示。
2014. 5. 26-8. 15	収蔵品紹介 15 百貨店が発信した日本製パリ・モード	日本の百貨店とパリのメゾンとのライセンス契約による、1950-70 年代の衣服作品を出展。
2014. 9. 8-12. 19	収蔵品紹介 16 コルセットの世界	1830-1910 年代のコルセットを中心に、デザインの変遷を紹介
2015. 1. 19-4. 17	収蔵品紹介 17 ファッションとファウンデーション	1910-60 年代の衣服作品と、そのシルエットを形作った多種多様な下着類を展示。
2015. 5. 11-8. 21	収蔵品紹介 18 お茶会の楽しみ	19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてのティー・ガウンを紹介。
2015. 9. 28-12. 18	収蔵品紹介 19 描かれたファッション	1910-20 年代のファッション誌に挟み込まれたファッション・プレートを展覧。
2016. 1. 18-4. 22	収蔵品紹介 20 衣装の縫い目が語ること	18 世紀のローブ・ア・ラ・フランセーズと、KCI 製作のレプリカを展示。
2016. 5. 16-8. 19	収蔵品紹介 21 日本のイメージ	2000 年代以降の西洋のファッションに現れた日本の文様にフォーカス。
2016. 9. 26-12. 22	収蔵品紹介 22 教育者としてのデザイナー	山脇美術専門学院の創立者、山脇敏子が 1950 年代に手掛けた着物と服を展示。

2017. 1. 30-4. 28	収蔵品紹介 23 ここちよく、美しく。	18 世紀から現代までの服、下着、スポーツウェアを通して快適性について考察。
2017. 5. 29-8. 25	収蔵品紹介 24 メイド・オブ・ペーパー	紙で作られた服をテーマに20世紀後期のファッションを中心に展示。江戸期の紙子も出展。
2017. 9. 25-12. 22	収蔵品紹介 25 私と一緒に出かける？	19 世紀後期のパリ・オートクチュール、あるいは既製品のコート類を展示。
2018. 1. 29-4. 27	収蔵品紹介 26 プレタポルテの幕開け	編集者、久田尚子が着用した 1960-70 年代のプレタポルテを中心に展示。
2018. 5. 28-8. 17	収蔵品紹介 27 優雅な生活	宮廷、私室、屋外での 18 世紀の貴族たちの装いから、その生活を考察。
2018. 9. 25-12. 21	収蔵品紹介 28 なんとなく、スーツ	20 世紀以降のビジネス・スーツを中心に展示し、スーツという「型」を考察。
2019. 1. 28-7. 12 （4 月に一部入れ替え）	収蔵品紹介 29 服の向こうに見える世界	18 世紀から現代まで〈アート（デザインの技)〉が服飾品にいかに表れたかを考察。
2021. 1. 27-4. 24 （2.29 より休館）	収蔵品紹介 30 文字をまとう	文字がデザインされた 18 世紀から現代までの KCI 収蔵品、約 30 点を紹介。
2020. 11. 2-12. 28	収蔵品紹介 31 髙島一精の仕事	髙島がデザインした「ネ・ネット」の 2007 年から 2015 年の作品 25 点。
2021. 4.22-7.30 （4.26-5.31 休館）	This is not a cat.：夜の動物園	髙島一精個展。動物たちのイラスト約 300 点を中心にドレスなどを紹介。
2021. 9.27-12.24	収蔵品紹介 32 昼と夜のための 2 つのボディス	1840 年代から 1890 年代までの、昼用と夜用の 2 つのボディスを持つドレス 4 セット、計 8 点を紹介。